



公益社団法人 兵庫工業会

理事 小畑 克弥
(ハニー化成株式会社)



兵庫工業会 NEWS

2026年 9 月号

発行／公益社団法人 兵庫工業会

No.325

技術開発を通じて産業の発展に貢献 —■ 巻頭言 ■—

日頃は兵庫工業会の皆様大変お世話になり誠に有り難うございます。

近年、世界経済を取り巻く環境は大きく変化しています。地政学的リスクの高まりや国際情勢の不安定化に加え、エネルギー価格や原材料価格の変動、各国におけるインフレの進行など、企業経営を取り巻く不確実性はこれまでになく増しています。また、国内においても少子高齢化に伴う労働力不足や人件費の上昇、環境規制への対応など、多くの課題に直面しています。

一方で、デジタル技術の進展や脱炭素社会への移行など、新たな成長機会も生まれています。このような時代だからこそ、ものづくり企業には変化を的確に捉え、独自の技術力と品質力を強みに社会へ新たな価値を提供していくことが求められています。私たち製造業は、産業基盤を支える存在として、持続可能な社会の実現と産業発展への貢献を果たしていかなければなりません。

当社は1952年の創業以来、「水と空気を科学する」を理念に掲げ、表面処理剤や機能性樹脂を中心とした化学製品の開発・製造・販売を行ってまいりました。神戸市長田区に本社、明石市に製造・研究拠点を構え、本年で創業70年を超える企業として、地域産業の発展とともに歩んでおります。

当社の特徴は、創業当初から一貫して研究開発を重視してきたことです。お客様の課題を解決する独自技術の創出に取り組み、これまでに数多くの製品を開発してまいりました。その成果は、科学技術庁長官賞や全国発明表彰発明賞をはじめとする各種表彰を受賞するなど高い評価を得ております。

近年、製造業を取り巻く環境は大きく変化し、環境負荷の低減や高機能化への要求がますます高まっています。当社では、こうした社会課題に対応するため、機能性材料や電子材料分野における技術開発を強化しています。また、お客様の開発段階から参画し、製品性能の向上や工程改善に貢献する提案型の技術サービスにも力を入れています。

2022年には新研究棟を竣工し、樹脂合成設備や各種評価設備、クリーンルーム環境を整備しました。さらに、大学や企業、公設試験研究機関との共同研究を推進するためのオープンラボを設置し、オープンイノベーションによる新たな価値創造に取り組んでいます。

また、地域社会との共生も重要な経営課題と考えています。品質管理や環境保全、安全活動の継続的な改善に取り組み、ISO9001およびISO14001の認証を取得するとともに、安全・環境分野においても各種表彰をいただいております。

今後も、世の中に必要とされる化学品メーカーとして、独自技術の開発と品質向上に努め、お客様や地域社会から信頼される企業を目指してまいります。そして、ものづくりを支える技術を通じて、兵庫工業会の皆様と共に地域産業のさらなる発展に貢献してまいる所存ですので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

2026年度 第2回理事会 ご報告

8月25日(火)、2026年度第2回理事会をラッセホールにて開催いたしました。

理事会では、以下の議案について審議いただき、満場一致で承認され、滞りなく終了しました。

議 案 第1号議案 会員の入会について

報告事項 2026年度の事業執行状況について



理事会の様子

行政との意見交換会 ご報告

兵庫工業会では、ものづくり企業の課題や声を行政に直接届けるとともに、行政施策への理解を深めることを目的に、毎年「行政との意見交換会」を実施しています。

本年度も兵庫県産業労働部、神戸市経済観光局との間でそれぞれ意見交換会を開催しました。

兵庫県産業労働部との意見交換会

開催日：7月29日(水) 会場：中央区文化センター

兵庫県からは小林産業労働部長をはじめ各課幹部が出席し、兵庫工業会からは三宅会長ほか役員が参加しました。

まず兵庫県から2026年度のものづくり企業に有用な主要施策が紹介されました。続いて兵庫工業会から、生成AIを起点にした次世代ものづくりへの取り組みをテーマに、DXゼミナールやネクスト・サイエンス道場、HYOGO採用イノベーションスクール、インド戦略をはじめとする人材施策の進捗状況を報告しました。

意見交換では、以下のテーマを中心に活発な議論が行われました。

- ・人材育成、AI活用（技能人材育成のあり方、理系・文系の枠を超えたロジカルシンキング人材の育成）
- ・外国人材の活用（インド人材の語学力・コミュニケーション力、優良な送り出し機関の開拓）
- ・地域エコシステム、住環境（学校統廃合跡地の住宅転用、若手人材の定着に向けた住環境整備）

閉会にあたっては、こうした定期的な意見交換の意義と、産業労働部との今後の連携継続への期待が示されました。

神戸市経済観光局との意見交換会

開催日：7月30日(木) 会場：中央区文化センター

神戸市からは大畑経済観光局長をはじめ幹部が出席し、兵庫工業会からは三宅会長ほか役員・会員企業代表が参加しました。

冒頭、神戸市から令和8年度の主要施策の紹介をいただき、兵庫工業会からも主要施策と進捗を紹介しました。その後、参加企業から近況報告があり、受注動向や人材採用の課題、資材価格高騰への対応、新たな付加価値創出に向けた取り組みなどが紹介されました。

意見交換では、以下のテーマを中心に率直な議論が交わされました。

- ・外国人材の活用（公共工事に関わる就労環境、家族帯同を含めた定着支援）
- ・中小企業のサイバーセキュリティ対策（公的支援拠点の活用）
- ・教育機関との連携（高専・高校・中学生と企業の接点づくり）

これらの議論を通じて、会員企業から示された現場の生の声が今後の施策にいかされることへの期待が示され、双方にとって有意義な意見交換となりました。

8月25日(火)、神戸市のラッセホールにて「テクノフォーラム2026」を開催しました。人口減少や労働供給不足など兵庫県のものづくり産業が直面する構造的課題を背景に、有識者による講演とトークセッションを実施。開会にあたり三宅会長より、こうした厳しい状況を追い風に変革へ取り組む決意が述べられました。

まず、有限責任監査法人トーマツ マネジャーの藤本照太氏より「リアルレポート 中小企業の現状と課題 ひょうごものづくりの可能性」と題したイントロダクションが行われました。人手不足倒産が過去最多となる中、いわゆる従業員退職型倒産が初めて100件を超えた厳しい現状が紹介されました。あわせて、DXに取り組む企業は42.0%に上るものの多くが紙のデジタル化にとどまっているデータが示され、人手に頼る経営から、価値で勝つ経営への転換の必要性が提起されました。

続いて、(株)DXパートナーズ シニアパートナー&代表取締役の村上和彰氏が「『ヒトがショッピングしなくなる』そんなAI時代、皆さんはどんな事業戦略を立てますか?」と題して講演。アナログ前提からデジタル前提へと発想を転換する重要性を強調し、所有から利用へ、単発から常時つながる関係へと価値観が変化の中、顧客との価値共創こそが競争優位につながると提言されました。

最後に、(株)人材研究所 代表取締役社長の曾和利光氏が「AI時代に変革を実現できる人、実現する組織、あなたはどの組織戦略を立てますか?」と題して講演。AIの普及により早く正確な情報処理の価値が下がる一方、自ら問いを立てる力や意味を語り人を動かす力が希少になると指摘。開放性、主体性、非同調性といった個性こそが変革を推進する原動力になるとのお話をいただきました。

続くトークセッションでは、金井副会長と吉井副会長が登壇し、藤本氏の進行のもと「社会構造激変期にあってもブレない『これからのものづくり経営』、あなたはどの牽引しますか?」をテーマに意見を交わしました。既存事業で利益を確保しながら新事業へ挑戦する葛藤や、自ら物語を語り組織の納得感を醸成することの大切さが語られました。

第1部終了後、会場の設営変更を経て懇親会を開催し、藤嶋副会長の乾杯挨拶で幕を開けました。会場では講演内容を踏まえ自社の課題と照らし合わせながら語り合う姿が見られ、岡田副会長の中締め挨拶をもって全日程を終了しました。第1部には130名、第2部には100名のご参加をいただき、兵庫のものづくり産業の変革に向けた決意を共有する貴重な機会となりました。



藤本 照太氏



村上 和彰氏



曾和 利光氏



トークセッションの様子

「ものづくり中小企業経営研究会」 成果発表会を開催

6月26日、「ものづくり中小企業経営研究会」の2025年度成果発表会が開催され、県内の中小企業経営者・幹部らが多数参加しました。

【第1部】 成果発表と新代表就任

山田前代表（㈱福原精機製作所 代表取締役社長）から昨年度のテーマである「非ディスプレイタイプ市場創造」の取り組み成果が報告された後、大野准教授（兵庫県立大）が「集合知」を活用した共存・協調領域の創出を提言。新代表に就任し高木氏（HKテクノロジー㈱ 代表取締役社長）はこれまで歴代代表が築いてきた理念継承とともに、年間テーマ「デジタル変革時代には選ばれる会社の条件 ～世代で変わる情報の受け取り方と価値を届ける発信戦略～」を発表し、世代別の情報収集変化に応じた発信方法を深堀する方針を示しました。

【第2部】 基調講演

岡本知久氏（元博報堂プロダクツ）が「伝え方で200%変わる。会社の未来。」と題して基調講演を行いました。一方的なアピールではなく行動を促す会話創出の本質や、情報をあえて絞り想像の余白を残す「引き算の美学」、AI時代における明確な5W1Hの重要性を説き、人の心を動かす発信手法を解説しました。

研究会は2026年7月より新年度の活動をスタートしており、随時新規メンバーを募集しています。自社の価値発信に関心のある経営者・幹部の参加をお待ちしています。



三宅会長の挨拶



高木新代表の就任挨拶

「DXゼミナール成果発表・事業説明会」を開催

6月24日、「DXゼミナール成果発表・事業説明会」を開催し、「トランスフォーメーション バイ デジタル」を掲げ、地域企業の覚悟と具体的変革プロセスを共有しました。冒頭、金井副会長より「単なるデジタル化にとどまらず、事業や組織そのものを抜本的に変革することこそが目的である」との挨拶がありました。続いて兵庫県の井上班長より、ビジネスモデルの変革が企業成長へ直結する重要な意義が示されました。

【第1部】 挑戦企業による成果発表：AIを武器にした事業モデルの変革

本事業の伴走支援・事務局を担う有限責任監査法人トーマツによる生成AIを用いた「高速プロトタイピング」の手法解説に続き、自社の再定義に挑んだ2社が成果を発表しました。

■㈱ヤスヒラ（テーマ：「AIを“使う会社”から“AIと共に学ぶ会社”へ」）：

機械工具卸から「製造業の意思決定を支援する知識企業」への脱皮を目指し、全社システムの一本化を断行。ベテランの暗黙知を言語化したマニュアルと自社AI「ChatYMT」を構築し、使えば使うほどAIと組織全体の知識が底上げされる「人とAIが共進化する学習型組織」へ転換を果たしました。

■オリバーソース㈱（テーマ：「調味料メーカーが描く“味覚体験プラットフォーム”構想」）：

ソース市場から調味料全般へ視座を広げ、屋号「道満調味料研究所」をデジタル上に復活。生成AI等を駆使して世界中の調味料データを集積・解析するプラットフォームを構築し、蓄積データを新商品開発に直結させる価値共創モデルを提示しました。

【第2部】 パネルディスカッション：「正直どうだった？ DXゼミナールのリアル」

オリバーソース㈱道満社長が「DXとは蛹が蝶に羽化するような不可逆の変革。トップ自らの覚悟が不可欠」と説き、㈱ヤスヒラ中川専務はAI活用による世代交代と技術承継の手応えを語りました。傍聴した大王電機㈱の近藤社長は「他社がどのような危機感を持ち、どのようなプロセスで経営判断を下しているのかを体感できたことが最大の学びだった」と振り返り、次年度の挑戦企業としての参画を表明しました。

当ゼミナールでは、2026年度参加・オブザーバー企業を募集中です。（9/16開講）



開講のご挨拶



挑戦企業の成果発表の様子



パネルディスカッションの様子

会員交流見学会 ご報告

会員交流見学会は、見聞を広め会員相互の交流を深めることを目的として、毎年実施しております。今年は「技術と歴史、そして宇宙へ。北国の地で、未来を語る2日間」をテーマに、7月8日（水）～9日（木）の1泊2日で、藤嶋会員交流委員長をはじめ参加者28名にて青森を訪れました。1日目は三内丸山遺跡やねぶたの家 ワラッセを見学し、交流懇親会を開催して大いに交流を深めました。2日目は六ヶ所村原燃PRセンター、日本原燃㈱、六ヶ所フュージョンエネルギー研究所、三沢航空科学館を見学しました。

（1）見学・視察

① 三内丸山遺跡

縄文時代前期から中期に栄えた日本最大級の集落跡を視察。大型建物や出土品から高度な定住文化や交易、豊かな精神文化を学び、縄文時代に対する認識を新たにするとともに、日本文化の原点に触れる貴重な機会となりました。

参加者からは「縄文時代のイメージが大きく変わった」「高度な集落形成や生活文化に驚いた」「現在も発掘調査が続けられていることに感銘を受けた」などの感想が寄せられました。

② 六ヶ所村原燃PRセンター・日本原燃㈱

原燃PRセンターで原子燃料サイクルやエネルギー政策について学んだ後、日本原燃㈱を視察。安全対策や地域との共生、再処理事業の役割を理解し、日本のエネルギーを支える最先端施設への理解を深めました。

参加者からは「原子燃料サイクルについて理解が深まった」「想像以上の施設規模と高度な技術、安全対策への取り組みに驚いた」「エネルギー政策を身近な課題として考える大変貴重な機会となった」など、多くの声が寄せられました。

また、青森県庁の皆様にもご同行いただき、青森県の魅力や地域の話題をご紹介いただくなど、温かいおもてなしをいただきました。

③ その他施設（ねぶたの家 ワラッセ、六ヶ所フュージョンエネルギー研究所、三沢航空科学館）

（2）交流会

交流会は青森市内の郷土料理店「たか久」にて開催しました。津軽三味線の生演奏やねぶた囃子の披露に加え、「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声とともに参加者全員が輪になって踊るなど会場は熱気に包まれ、今回の視察の中でも最高潮の盛り上がりを見せました。「これまで参加した交流会の中でも特に印象深い見学会だった」との声も多く聞かれました。

（3）総括

今回の見学会では、歴史・文化・エネルギー産業への理解を深めるとともに、青森ならではの文化や食を満喫し、会員同士の親睦を一層深めることができました。視察・交流ともに大変有意義な2日間となりました。

早くも次年度の候補地が話題に上っており、別途、分科会にて検討する予定です。



三内丸山遺跡の見学



PRセンター視察



エネルギー研究所での集合写真



交流会の生三味線

募集要項

■論文テーマ：

中堅向け 「ものづくり企業の魅力とあるべき姿」

新人（若年）向け 「社会人としてのこれからの夢」

共通（どちらかを選択） 「AIとものづくり」・「AIと未来の働き方」

※上記テーマから1つを選んでください。

■応募期間：2026年8月1日 ～ 2026年11月30日（必着）

■応募記載要領（要領から外れた記載は減点の対象となりますのでよくお読みください）

- （1）A4・横書き、Wordデータとする ※原稿用紙設定不可・PDF不可
フォントは「明朝体」、フォント数=10.5
- （2）構成：表紙を1ページ目として、
題名・会社名・所属・所属先住所・氏名・生年月日・入社年月日を記載
：2ページ目から「本文概要」、「本文」を記載（「本文概要」と「本文」が審査対象）
- （3）「本文概要」、「本文」文字数：2,500文字 ～ 3,500文字
（図表、図表解説文、出展記載はカウント外／過不足があれば事務局よりご連絡、修正をお願いします）
- （4）「本文」で引用した文章、図表、数値等については出展を本文とは別に「出展」として明記
- （5）執筆者にしか書けない意見・所見を本文中に必ず明記する
（この部分における生成AIの使用は禁止致します）

■提出方法：Eメール（ronbun@hyogo-ia.or.jp）にて事務局までお送りください。

- ※1）論文データ確認後、事務局より受付のご連絡をさせていただきます。
また、ご記入いただきました情報は本事業実施のためのみ使用させていただきます。
- ※2）応募後の退職につきましては、速やかに事務局まで連絡をお願いいたします。

■審査：一次・二次・三次による厳正な審査を経て2027年3月末日 兵庫工業会ホームページにて結果発表いたします。

■表彰：2027年5月開催の兵庫工業会 通常総会時に表彰式を実施

最優秀賞	1名	副賞10万円（兵庫工業会ニュースに掲載いたします）
優秀賞	1名	副賞3万円
優良賞	1名	副賞2万円

※その他の応募者には奨励賞をお渡しいたします。

■その他：兵庫工業会ホームページからも募集案内をご覧いただけます



インド理工系人材セミナー ご報告

～大阪商工会議所との共催～

大阪商工会議所との共催により、7月22日(水)、大阪商工会議所（大阪市中央区）にて「インド理工系人材セミナー～事業変革に求められる人材の可能性を考える～」を開催しました。

少子高齢化に伴う労働人口の減少により、2030年には最大79万人の高度・先端IT人材が不足すると見込まれる中、世界最大の人口を有し、毎年約150万人の工学系学生を輩出するインドへの関心が高まっています。日印両国政府が発表した「日印人材交流イニシアティブ」を背景に、本セミナーではインド理工系人材の日本での活躍の可能性が紹介されました。

当日は、在大阪・神戸インド総領事チャンドル・アップル氏の開会挨拶に続き、大阪商工会議所国際部と兵庫工業会が趣旨説明を行いました。その後、インド人材専門の人材紹介会社2社（株Willings、Zenken(株)）が講演。続く企業事例発表では、兵庫工業会会員企業である音羽電機工業(株)の吉田社長が、実際に採用したインド人社員とともに登壇し、採用の経緯や入社後の活躍状況を紹介しました。また、近畿経済産業局からはインドとの人材交流促進事業についての説明もありました。

参加者98名を数えた本セミナーには多数の企業関係者が詰めかけ、セミナー終了後の交流会も盛況のうちに閉会しました。



インド人材専門の
人材紹介会社2社の講演



吉田社長とインド出身社員による講演

カスタマーハラスメント対策研修の実施と

10月施行の改正労働施策総合推進法について

2026年6月、会員企業を対象にカスタマーハラスメント（カスハラ）対策研修を実施しました。講師には、中小企業診断士・社会保険労務士の資格を持つ専門家をお迎えしました。

研修では、2026年10月施行の労働施策総合推進法改正によりカスハラ対策が事業者の義務となることを踏まえ、「内容の妥当性」と「要求方法の相当性」という2軸でカスハラと正当なクレームを見極める判断基準が解説されました。営業・受注対応・ネット販売など複数の業務シーンを想定した事例をもとにグループワークを行い、自社の業務に潜むリスクを具体的に洗い出しました。

対応の基本原則としては「迷ったら即退避→報告」を軸に、限定的謝罪・感情の切り離し・5W1Hでの記録といった初動対応のポイントが紹介されました。さらに、アサーティブ・コミュニケーションやDESC法など、相手の人格を否定せず自社の立場を明確に伝える実践的な対話技法を学びました。

後半では管理職に求められる役割にも触れ、部下からの報告を放置しないことや無理な訪問を命じないといった責務を確認したほか、「自社が取引先に対して加害者にならないか」という視点から、発注側としての適正なコミュニケーションについても振り返る内容となりました。

参加者からは「判断に迷ったときの拠り所ができた」「管理職として何をすべきか整理できた」といった声が寄せられました。

兵庫工業会では、こうしたテーマについても講師派遣型研修を実施しております。自社での開催をご希望の会員企業様は、事業推進部までお気軽にお問い合わせください。

※10月施行の改正労働施策総合推進法の詳細につきましては、厚生労働省「事業主が講ずべき ハラスメント対策パンフレット」をご参照ください。



伊福精密株式会社

〒651-2124 神戸市西区伊川谷町潤和字西ノ口750-6

TEL : 078-978-6760 / FAX : 078-978-6761

URL : <https://www.ifukuseimitsu.com/>

代表取締役社長 伊福 元彦

～技術をつくる会社から、技術を守り、未来へつなぐ会社へ～

伊福精密株式会社は、1970年に旋盤加工を中心とする伊福工作所として創業し、1980年に法人化しました。以来、精密機械加工を基盤として、金型部品、自動車部品、航空宇宙・防衛関連部品など、品質と信頼性が厳しく求められる分野に挑戦してきました。現在は、5軸加工、ワイヤ放電加工、研削、三次元測定に加え、金属3Dプリンティングを組み合わせ、難削材や複雑形状の部品を一貫して製造できる体制を整えています。

ものづくりを取り巻く環境は大きく変化しています。熟練技能者の減少、原材料・エネルギー価格の上昇、サプライチェーンの不安定化に加え、製品の高機能化と開発期間の短縮が同時に求められています。従来の図面どおりに加工するだけでは、顧客が抱える課題に十分応えられません。そこで当社は、製造方法そのものを提案する企業への転換を進めてきました。

その象徴が金属3Dプリンティングです。金属粉末をレーザーで溶融し、層を積み重ねて造形するL-PBF方式は、切削では製作が難しい内部流路や一体形状を実現できます。一方で、造形しただけでは製品になりません。熱変形、残留応力、表面粗さ、寸法精度を見極め、熱処理、切削、研削、放電加工、測定までを設計する必要があります。当社は、長年蓄積した精密加工技術と金属AMを融合し、材料から最終精度までを見通した工程設計を強みとしています。

さらに、現物しか残っていない部品を三次元測定やスキャンでデジタル化し、形状を再構築するリバースエンジニアリングにも取り組んでいます。取得したデータを再製造可能な状態で蓄積する「デジタル倉庫」は、金型や補修部品を大量に保管する従来の倉庫とは異なり、必要な時に必要な場所で製造する考え方です。保管費や廃棄を減らし、廃番部品の供給、災害時の復旧、海外を含む分散生産にもつながります。これは単なるデータ保存ではなく、材料、加工条件、品質記録まで含めて再現性の確保を目指す、新しい製造インフラへの挑戦です。

当社では、これらの技術を活用し、外径100ミリメートル以下を目標とする超小型ガスタービンの研究開発も進めています。高温・高速回転に耐える部品には、耐熱合金の造形、薄肉・複雑形状の加工、高精度な組立と評価が必要です。自社製品の開発は容易ではありませんが、設計、製造、計測を社内ですること、受託加工だけでは得られない知見が蓄積されます。その知見を航空宇宙、エネルギー、次世代モビリティなどの顧客課題へ還元することが目的です。

一方、デジタル化が進むほど、図面、3Dデータ、加工条件、品質情報は重要な経営資産になります。優れた技術を生み出しても、適切に守れなければ企業の競争力は失われます。当社は情報管理をIT部門だけの仕事ではなく経営課題と位置付け、情報資産の棚卸し、アクセス権限の見直し、教育、記録管理を進めてきました。2026年には技術情報管理認証制度（TICS）の審査に合格し、「技術をつくる力」と「技術を守る力」を両輪とする体制づくりを進めています。

変化への挑戦は、新しい設備を導入することだけではありません。過去の成功体験を疑い、仕事の流れを可視化し、社員一人ひとりが改善を続けられる組織へ変わることが重要です。デジタル技術は人を置き換えるためではなく、熟練者の判断を次世代へ伝え、人がより創造的な仕事に向き合うために活用すべきだと考えています。

精密加工、金属3Dプリンティング、リバースエンジニアリング、デジタル倉庫、そして技術情報管理。これらを個別の事業としてではなく、一つの製造循環としてつなぐことで、少量多品種、短納期、供給継続という日本のものづくりが抱える課題に役立てていきます。神戸の地から、必要な技術を必要な時に届け、次の世代へ確実につなぐ会社であり続けること。それが、伊福精密の「変化に挑戦」です。



本社正面玄関



金属3Dプリンターによる造形品



デジタル倉庫サービス

兵庫テクニカルスクール「機械加工と材料特性基礎コース」ご案内

神戸市立工業高等専門学校の実験室を活用し、同校の教員が機械加工の基礎を直接指導します。座学で加工の理論を学び、実際の設備を使った実習を通して体験的に理解を深めることで、設計者に求められる加工の基礎知識と技術を身に付けることができます。他ではなかなか体験できない鋳造実習を取り入れていることが、本コースの大きな特色です。全4回（土曜日開催）の短期集中研修コース

【神戸教室】10:00～17:00 定員 10名／神戸市立工業高等専門学校 機械工学科 実験実習棟

会員企業：64,000円 非会員企業：96,000円

11/14(土) 鋳造技術入門 11/21(土) 溶接技術入門

11/28(土) 工作機械技術入門 12/5(土) 材料力学と材料試験

神戸教室TEL：078-361-5667

詳細は兵庫工業会HPまたはQRコードまで
お申込みお待ちしております。



新 会 員 紹 介

栄弘特殊硬業株式会社

代表者 専務取締役 北住 小夜
所在地 〒661-0978
尼崎市久々知西町2-14-13
TEL 06-4961-5530
FAX 06-4961-2641
URL <https://eikoutokusyu.co.jp>
資本金 10,000千円
従業員数 9名

■営業品目

精密金属加工・オイルバーナーチップ製造・表面熱処理・燃焼機器部品製造
船舶・発電設備・産業機械部品加工

■事業内容

当社は、特殊鋼・ステンレス鋼・耐熱鋼などの難削材を中心とした精密金属加工を得意としております。船舶エンジン、発電設備、ボイラー、産業機械・プラント関連部品など、品質や精度が求められる部品製作に長年携わってまいりました。多品種少量品や難易度の高い加工にも柔軟に対応し、試作から継続品まで、お客様の課題解決につながるものづくりを心掛けております。



日本テクノ株式会社 兵庫・瀬戸内支店

代表者 支店長 吉本 祐大
所在地 〒651-0096
兵庫県神戸市中央区雲井通
7-1-1神戸新聞会館ビル
(ミント神戸) 16階
TEL 078-265-1014
FAX 078-265-1024
URL <https://www.n-tecno.co.jp>
資本金 571,940千円
従業員数 1,742名

■営業品目

キュービクル常時監視システム販売、省エネ支援、保安点検、発電・小売電気事業

■事業内容

当社は1995年の設立以来、電気に関するトータルエネルギーソリューションサービスを提供しています。「つくる・まもる・賢くつかう」という3つの事業を軸に安全・安心な電気を供給します。保安サービスの柱である主装置「ES SYSTEM」は24時間高圧受変電設備を監視し、異常があればすぐに当社監視センターおよび電気主任技術者へ通報、対応。今後も社会インフラの根幹を担う企業として、お客さまと社会から信頼される企業をめざします。



富士インキ工業株式会社

代表者 代表取締役社長執行役員 伴 慎
所在地 〒669-1357
三田市東本庄大蔵谷2224-4
TEL 072-770-5617
FAX 079-560-7015
URL <https://www.fujiink.co.jp>
資本金 49,500千円
従業員数 39名

■営業品目

特殊グラビア印刷用インキ及び機能性液体の配合・分散技術の設計、製造・販売

■事業内容

兵庫県にて特殊グラビアインキの研究開発・製造販売、福岡県にてドライラミネート加工をメインに事業を営んでいます。半世紀を超える特殊グラビアインキの研究開発で培った配合・分散技術を基に、近年は世の中を便利に明るくする各種機能性液体の技術開発に取り組んでいます。令和4年三田市に工場を新設し、製造キャパシティの拡大と圧倒的な品質向上を果たしました。世の中に彩りを与え、便利でワクワクする新技術をお届けします。



会 員 動 向

代表者登録変更				
会 員 名	新 登 録 者		旧 登 録 者	変 更 月
(株)アビノ	取 締 役 社 長	中谷 修治	宮崎 幸三	2026年6月
MHI NSエンジニアリング(株)	代表取締役社長	松藤 稔	長屋 充	2026年6月
近畿日本ツーリスト(株)西日本法人支店	支 店 長	山本 俊治	土岐 道造	2026年6月
(株)薫寿堂	代表取締役社長	魚住 朋樹	福永 稔	2026年6月
(株)コベルコE&M	代表取締役社長	増田 勝昭	浅田 秀樹	2026年6月
(株)コベルコ科研	代表取締役社長	谷川 正樹	松本 修	2026年6月
(株)シカタ	代表取締役社長	志方 純	志方 和久	2026年6月
神鋼環境メンテナンス(株)	代表取締役社長	丸山 智裕	小武海 陽	2026年6月
神港精機(株)	代 表 取 締 役	北中 隆司	眞下 忠	2026年6月
セツカートン(株)	取 締 役 社 長	飯島 恒徳	丹羽 俊雄	2026年6月
大和リース(株)神戸支店	支 店 長	堀本 勝也	水野 貴幸	2026年6月
(株)トクセンエンジニアリング	代表取締役社長	森岡 哲隆	櫛部 春雄	2026年6月
日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所 広畑地区	常務執行役員 瀬戸内製鉄所長	岸本 将	今居 武士	2026年6月
福伸電機(株)	代表取締役社長	宮内 健三郎	宮内 康伴	2026年6月
(株)ムカエ	代 表 取 締 役	神田 泰男	土井 淳司	2026年6月
川崎油工(株)	代 表 取 締 役	清瀬 弘晃	群 憲司	2026年7月
川重明石エンジニアリング(株)	代 表 取 締 役	葛西 信幸	腰前 昌俊	2026年7月
川重車両テクノ(株)	代表取締役社長	大橋 良和	永田 一行	2026年7月
富士通(株)	関西エリアサポート部 部長	衛藤 公昭	吉永 哲也	2026年7月
扶桑電機工業(株)	代 表 取 締 役	渋谷 宣泰	丸毛 康史	2026年7月
(株)ライト黒板製作所	代 表 取 締 役	稲垣 佳樹	稲垣 主税	2026年7月
日清鋼業(株)	代表取締役社長	藤本 久之	山本 博史	2026年8月
前川建設(株)	代表取締役社長	前川 真一郎	前川 容洋	2026年9月
代表者役職変更				
会 員 名	新 役 職		旧 役 職	変 更 月
阿比野建設(株)	代表取締役会長 兼 社長	阿比野 剛	代表取締役会長	2026年6月
甲南電機(株)	代表取締役会長 兼 CEO	宮内 寿一	代表取締役会長 兼 社長	2026年6月
(株)ダンロップタイヤ 近畿カンパニー 兵庫支店	支 店 長	矢谷 雅敏	兵庫支店長 理事	2026年6月
ハニー化成(株)	代表取締役会長	吉田 眞也	代表取締役社長	2026年6月
阪神電線(株)電線事業部	取 締 役	八木 豊弘	執行役員	2026年6月
会員登録名変更				
新 会 員 名	旧 会 員 名			変 更 月
(株)立花エレクトック	山陽三菱電機販売(株) 兵庫支店			2026年7月
富士通(株)	富士通(株) 明石システムセンター			2026年7月
METALIX(株)	(株)阪神メタリックス			2026年7月

イ ベ ン ト 情 報

月 日	事業名・内容	場 所
10月5日(月)	第2回会員訪問・情報交流会	(株)千代田精機
10月7日(水)～10月8日(木)	SDGs研修会 国内技術見学会	新潟県燕三条市・柏崎刈羽原発 他
11月17日(火)	職域における創意工夫者表彰式	神戸市産業振興センター ハーパーホール
12月4日(金)	会員交流懇親会	神戸ポートピアホテル

公式SNSで情報発信中！
ぜひ、フォロー・ご登録ください！

Instagram→



兵庫工業会HP→



ご入会・セミナー・講演会・研修などのお問合せ・お申込みは…



公益社団法人
兵庫工業会

本 部
神戸事務所

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通6丁目3番28号 兵庫県中央労働センター 3 階
TEL 078(361)5667 / FAX 078(371)4336 / Eメールアドレス mail@hyogo-ia.or.jp
URL http://www.hyogo-ia.or.jp

姫路事務所

〒670-0962 姫路市南駅前町123 じばさんびる 3 階
TEL 079(223)8230 / FAX 079(223)8231